

みんなで作る  
森ものがたい

2022年6月26日発行 第142号

油山自然観察の森  
森を育てる会



〒811-1355  
福岡市南区大字桧原855-4  
油山市民の森管理事務所内  
TEL: 092-871-6969  
FAX: 092-801-1463  
<http://www.morikai.org/>  
mail: aburayama@morikai.org



<6/12 カブトムシの森 昆虫調査>

	表紙	1
	活動ノート (2/27, 3/27, 4/3, 4/17, 5/22, 5/29, 6/12)	2~4
も	特集「安全講習会」	5~6
	油山のお仕事日記「沢のおしごと」	7
く	「私が森にいる理由」	7
	うん・えー会報告 (3/6)	8
じ	活動予定	8

「森を育てる会」は福岡市油山自然観察の森の保全活動を通じ、広く緑地保全活動を行う市民の育成・交流を行う事を目的とする市民グループです。活動は（公財）福岡市緑のまちづくり協会の助成を受けて行っています。**会では、随時、会員を募集しています。**興味がある方はメールまたは電話でご連絡下さい。

# 活動ノート



2月27日(日)  
カブ森作業(シイタケコマ打ち、除伐、草刈り)  
9:30~15:30



◆参加者: 21名

◆内容: カブ森で、はじめにシイタケ栽培全般についての話、電動ドリルの使い方などを、経験者のデモンストレーションも交えて説明した後、早速3班に分かれてコマ打ちを始めました。今日のコマ打ちには7名の子供たちも参加し、また大人も今日が初めてという人もいましたが、経験者の指導のもと、和気あいあいとコマ打ちが進められました。昼食後、クヌギの間伐を2班で行い、安全の為A地区とC地区に分れて作業、それぞれ1本ずつ伐採しました。伐採後の萌芽枝があちこちに見られるようになり、出来るだけそれらを避けながらの伐倒作業ですが、今回も狙い通りの正確な伐採が出来て、技量の向上が実感されました。伐倒した材は120cmに玉切りしておけば管理事務所が後日持ち出して貰えることになったので、そのように処理しました。子供達には大きな木の伐採は危険なので、草刈り班に入って貰い、受け口作りと材処理でノコギリを使って貰いました。A地区のササは草刈り作業で随分背が低くなってきましたが、油断するとすぐ背が高くなるので、今後も機会あるごとに刈って

いきます。今日は先般実施が決まった、森の状況を定点で撮影してその変遷を記録していくプロジェクトの為に杭打ちもしました。これから継続的に写真を撮っていきます。

【ふりかえりより】

・はじめてドリルをしたけど、思ったより穴をあけるのがスーといっとうれしかったです。

3月27日(日)  
アカマツ林作業(除伐、シダ刈り)

9:30~16:00



◆参加者: 7名

◆内容: アカマツ林のヤマザクラはまだこれからというところでしたが、コブシに似たタムシバの白い花や野鳥の声に春を感じながら、楽しく活動できました。アカマツ林で作業内容の確認と班分けをしました。午前中、一班は1月に高校生が研修で体験伐採したA地区のクロキの材処理を行いました。小径木ながら枝・幹切りは結構大変でした。もう一班はD地区斜面下部のタブの除伐。伐根直径約35cm、樹高は15m超はある大径木です。基本に従い準備をしてから第一段階の受け口切りを行いました。お昼はガイダンス広場で思い思いに距離を取って弁当を広げ腹ごしらえをしました。途中、散策の人に連れられたワンちゃんがやって来て、食べ物のおいを察知しておながか空いていたのかその場を

動かなくなってしまったのはクーモラスで和みました。午後、材処理班はD地区で午前同様の作業をしました。こちらはリョウブでしたがこれも思いのほか量があり時間がかかりました。その後はE、F地区遊歩道沿いのシダ刈りや林床植物の保護作業も行いました。伐採の材がきれいに片付きスッキリしました。一方伐倒班は追い口切りを進め、最後はクサビを打ち、張っていたロープを引いて狙い通りの方向に倒しました。この除伐により更に見通しが良くなってアカマツ林らしい景観が楽しめるようになったと思います。今年度最後の活動、天気にも恵まれ怪我も無く終わることが出来て何よりでした。子ども会員も森の作業、道具の運搬や整備まで頑張ってくれました。

【ふりかえりより】

・35cmのタブノキ伐倒、3人ではきつかった。見通しが本当に良くなりました。

4月3日(日)  
アカマツ林作業(伐採、ヤード整理、シダ刈り)  
9:30~15:30



◆参加者: 11名

◆内容: 爽やかな晴天のもと、時折春風に乗って山桜の花びらがハラハラと舞う気持ちの良いアカマツ林でしたが、斜面が多く作業は結構ハードなものとなりました。ミーティングで作業内容や安全対策を確認、20種類ほどの道具類を手分けして運び、準備運

動も済ませて作業の班分けを行いました。伐採木の処理・ヤード整理班、斜面のシダ刈り班、遊歩道沿いのシダ刈り班の三つの作業班です。一週間前にD地区で除伐した大径のタブノキは先ず2人1組でチェーンソーを使って枝を落とし、幹の玉切りを行いました。その後2人加わり、伐採木が土にかえり易いよう枝を細断し、太い枝・幹は鳶口も使ってヤードに並べました。直径35cm超の高木の常緑広葉樹でしたので、伐根の切り戻しを含めかなりの作業量になりました。また併せて、谷側の遊歩道に近い方で腐食が進んできたヤードの材の整理も行いました。C・D地区の斜面ではシダ刈りを行いました。対象範囲が広く、カマ・刈込バサミでの作業でしたので最初は5人で開始し、最終的には7人がかりで刈り進めました。急斜面が多く、崖のような状態の場所もあって足場を確認し転倒に注意しつつ気の抜けない作業になりました。一面シダに蔽われた中にアカマツの実生を見つけた時はふっと気持ちが和みます。幼木も育ってきており、今日の作業の成果としてこれからの生長がまた楽しみです。遊歩道沿いはD地区とE・F地区のシダ刈りを4人で行いました。一週間前の活動で手掛けたE・F地区では幼木周りを中心に更に刈り取って開けた感じで気持ちよく歩けるようになり、新年度の時期に満足できる状態になりました。D地区尾根のシダ刈りは思いのほか苦労しました。これまで手を付けていなかった為に背丈は伸び莖は硬く、カマでは間に合わずノコで切り取りました。スッキリとなり、ここにもマツの芽が出ることを期待します。子供会員は作業の合間に蔓を編んで松ぼっくりや枝葉を飾ってリースを作ったりしました。気持ちのよい春の一日、楽しい活動ができました。

#### 【ふりかえりより】

・傾斜地でのシダ刈り、足元を十分注意を行い安全に作業ができました。

4月17日(日)

#### カブ森作業と植生調査(伐採、草刈り、調査)

9:30~15:45



◆参加者：11名

◆内容：現地で伐採予定木、草刈りの場所を確認後、班分けをして作業に入りました。伐採班は午前中、受け口作りまで行い、その間にチェーンソーで伐倒の支障となる伐り株の切り戻しをしました。草刈り班は体験参加の方々に構成、西側入口階段周辺から始めました。ほぼ刈り終わったところで、伐採体験をして貰い、今度は休憩小屋北側の草刈りにかかりました。午後の伐採班は、追い口切りから作業を再開しました。最後はクサビで伐倒、見事に予定した方向に倒すことが出来、被害木もありませんでした。センターからの要望で主幹を4mで玉切り、その他はチップなどに使うとのことで通常の枝処理をしました。草刈り班の午後は、伐採に際して入園者の安全確保のための見張り役、伐採後の枝処理への参加などいろいろと体験してもらいました。一方、調査班は、先ず継続調査している5m×5mの区画4つを調査し、蕾、花、果実の付いている植物の種類と被度を調べました。同定・記録を行い、調査区の調査は、12時頃に終了し、午後は、カブトムシの森全域の希少種の確認をしました。調査区内では16種確認できました。例年に比べ、種数が少なく、今回初め

て出現した種類ありませんでした。例年、数株しか見られないツルニンジンとコバノボタンズルがあちこちで見られました。午後のカブトムシの森全域の調査では、見られる個体数の少ない種での消長が観察できました。C地区では、続けてきた草刈りの成果として、見渡す限りに青く広がるカキドオシやフデリンドウが眩しかったです

#### 【ふりかえりより】

・クヌギの森は人の手入れがないと暗い森となり鳥も来ないという話に感心しました。

5月22日(日)

#### 安全講習会

9:30~16:00



◆参加者：19名

◆内容：センター前で刈払い機や大がま、中厚がまなどの使い方の説明を行いました。使用者の回転半径には近づかない事、斜面の下向きには作業しない事、使用する人と周囲で作業する人双方が互いに気を付ける必要がある事などを確認しました。刈払い機やチェーンソーを使用している人は声が聞こえにくく近づくこともできないため、声をかける際は、遠くから石等を当てて気づかせるという方法も学びました。説明の後は準備運動を行いカブ森へ移動し、子ども広場の観察小屋前で、今日の伐採作業で使用する道具の説明と安全な伐倒方法等について座学を行いました。道具の説明では、ノコの種類や用途の違いなど、普段使用している道具について、あらためて理解を深めることができたと思います。今回、新入会員が道具係に初挑戦して

くださいましたが、道具係をやってみることも、道具と名前を覚えるきっかけになると思います。座学では、刃物の使用や樹木の伐採、危険な野生生物など、森会の活動には常に危険が伴うことをまずは理解してもらい、会員一人ひとりが安全作業の知識を身につけ、みんなで気をつけることが大事であることをお話ししました。そして、活動時の基本ルールと、特に大きなケガにつながりやすい伐木作業の手順と注意点を学びました。参加者からは、万が一の事故発生時の連絡手順や伐木時の退避場所、活動時のマスク着用等について積極的な質問もあり、意見交換を行いました。昼食後、伐倒時のロープ掛けにも使うロープの結び方(「てこ結び」や「引き解け結び」)をみんなで練習しました。ロープワークの後は、B地区へ移動し、2班に分かれて伐木実習を行いました。それぞれB地区遊歩道沿いの直径10~15cm程のヤブツバキの除伐の実習です。指導員は基本見守りに徹しながら、参加者自らが話し合い判断しながら伐倒に挑戦しました。木を切る前の準備作業をしっかりと行うことの大切さや、受け口・追い口を正しく切る難しさなどを体感して頂けたと思います。両班とも、無事に伐倒できましたが、ロープ掛けの最終点が、受け口(伐倒)方向に近い場所にかかっていた点が反省点となりました。その後、切り戻しと枝処理を行ったところで午後の作業を終了し、片付け、振り返りを行い、センターにて道具整備後、解散となりました。

#### 【ふりかえりより】

・道具の安全な使い方と伐採する際の注意事項をしっかりと覚えていきます。

**5月29日(日)**  
**カブ森作業(草刈り)**  
**9:30~15:25**



◆参加者：11名

◆内容：今日半日作業体験に来られた海の中道ボランティアの方々とA地区を一周しながら、草の繁茂状況、作業概要、保護植物を確認しました。続いて刈払機担当2班と手道具担当に班分けし、改めてそれぞれの作業場所を確認して作業開始。刈払機1班は休憩小屋北側、2班は西側の道路下で作業しました。手道具班は、西側入口階段周辺から始めました。午前の作業が終わったところで、C地区で草刈り体験をしていた海の中道ボランティアの面々も交えて子供広場で昼食となりました。同じく森の手入れをしているものの、油山の植生の豊かさが印象的だったようです。午後から午前の作業を続け、湿地以外はほぼ刈ることが出来、入園者が通り易いA地区となりました。尚、B地区の遊歩道沿いもイタドリなどを刈って通行しやすくなりました。

#### 【ふりかえりより】

・草刈りを行いました。足元に注意を行い、安全に作業が出来ました。

**6月12日(日)**  
**カブ森昆虫調査**  
**9:30~15:25**



◆参加者：14名

◆内容：センター前で活動内容、安全事項、コロナ関連事項、の確認を行ったうえで、準備体操後にカブ森へ向けてルート観察スタート。途中はゆっくりと昆虫などを探しながら道中で10種類を同定しつつ進みました。カブ森では同定できない昆虫もいて、しっかりと写真撮影して後日同定できるようにしましたが、6月という事でマドボタルやトンボなど8月に行っていた調査では同定されていなかった昆虫含め13種も見つかりました。ルート観察では合計23種を同定、不明4種含めて27種とますますの成果となりました。観察小屋で昼食後はトラップを回収しましたが、6月はまだカブトムシには早いことはわかっていたものの、成果は今一つで、センター到着後に同定できたのは9種にとどまりました。この結果から来年はトラップなしで採集中心を検討します。全体的には初同定の昆虫もいくつか見付き、参加者の皆様からも楽しめたとの声を頂け、けが人もなく終了できたので有意義な活動ができたと思います。



#### 【ふりかえりより】

・天気も丁度よく、いろんな虫を見ることができて子供たちが喜んでいたので参加できて良かったです。虫の取り方勉強になりました。

・孫と昆虫の話が出来るようになるために参加しました。時間がかかるようです。

・作業の時は見落としてしまう昆虫に触れることができました。

## <特集：安全講習会>

### ～ みんながルールを知って・守って いつも笑顔の森会に！ ～ 安全講習会世話役 中嶋

森会の活動は普段の生活とは異なる自然の中で行うものです。作業では刃物など様々な道具を使い、10mを超える木々の伐倒なども行います。

会員の皆さんにまず理解してもらいたいことは、活動時には、常に様々なリスクが存在するということです。このことを忘れないようにし、一人ひとりがリスクを減らすために取り組む必要があります。

皆さんには、事故やケガなく、いつも楽しく笑顔で活動を終えて帰って欲しい。

そのために、以下の森会の安全作業の基本ルールを確認してもらい、活動時は必ずこれを守ることをお願いしたいと思います。

#### 1 森会の安全対策の考え方

危険を0にすることはできませんが、安全の確率を上げ、危険な目に遭う確率を減らすという考えのもと、様々な仕組みやルールを設けています。

- ①基本的に自分の安全は自分で守ります。
- ②他人にも危険を及ぼさないよう配慮し、同行する15歳未満の子供についても保護者は同様の心配りをします。
- ③活動日は当日の予定作業や事前に想定される危険・その対策などを盛り込んだ実施計画書（世話役作成）に基づき運営します。
- ④参加者は世話役、安全世話役など運営スタッフの指示に従って、安全な運営に協力します。
- ⑤救急箱を活動地に持っていきます。※中には応急医薬品、近隣の病院の地図などが入っています。

#### 2 基本的な注意事項

##### (1) 服装：森会スタイルを徹底する

- ・長袖、長ズボン（虫刺され、ケガ等予防）  
※ハチ刺され予防のため白っぽいものを着用
- ・すべらない軍手着用（刃物等によるケガ予防）
- ・帽子、ヘルメット着用（頭部の保護）
- ・しっかりした靴（足元の保護）
- ・ベルト（道具を着用して放置による事故防止）
- ・リュックサック（飲み物・雨具等の携行品持参）

##### (2) 体調管理

斜面や暑い中での作業は体力を消耗します。前日や当日はしっかりと体を休めるとともに、作業中はこまめな水分補給と休息を心がけてください。

体調がすぐれないときは、すぐに周りの会員や世話役に申し出て無理をしないようにしましょう。

なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者は事前に世話役あてに連絡を行うとともに、当日はマスクの着用（屋外での作業中は除く）と消毒を行いましょう。また、発熱等の症状がある場合は参加できません。

##### (3) 刃物等の使用

作業する上でかかせない便利な道具も、使い方を誤ったり注意を怠ると大けがにつながります。以下の点に注意しましょう。

- ・必ず軍手を着用
- ・正しい使用方法・手順を守る（経験者は教え、初心者は教わる）
- ・隣接作業の禁止（周囲に人がいないか確認）
- ・道具を放置しない（必ず身につけ、都度確認）
- ・お互いに声掛けして注意し合う

##### (4) 作業上の注意

山での作業はちょっとしたことで事故につながります。常に潜んでいる危険に気を配りましょう。

- ・上下作業の禁止が原則（石など落としてしまう可能性があり危険です）
- ・周囲への気配りと声掛け（会員及び来園者）
- ・斜面での転倒（足元をよく確認。山側の足に体重をかけると転倒しにくい。）

#### 3 伐木作業の手順とルール

伐木作業は特に重大な事故につながる恐れのある作業です。生木はとてつもない重量です。その木がはるか頭上から倒れてくるのですから当然です。

伐倒時は必ず次頁の手順とルールを守るとともに、作業者以外も必ず手順を理解し、みんなで注意し合うことで、安全の確率を上げて事故を防ぎましょう。

##### 作業の目標

「最初から最後まで作業者のコントロール下に置き、安全な方向に倒すこと」

##### 安全に伐倒するための手法 ※必ず実施

###### ①事前準備

- ・作業計画、作業範囲、危険・注意箇所の確認

###### ②安全な伐倒方向決め

- ・木の重心を判断（傾き、枝の張り方、葉の茂り具合、つるの巻付有無を確認）して掛かり木にならない方向を決める。  
※傾斜面では斜め下方又は横方向が安全
- ・退避方向と場所も決めておく

###### ③周辺の整理（作業と退避をしやすくする）

- ・木の周囲や退避場所までの低木や下草等の除去

###### ④受け口、追い口、つるを作る（倒れる方向と速度のコントロール） ※次ページの図参照

- ・追い口切りの際、一部切らずに残す部分「つる」

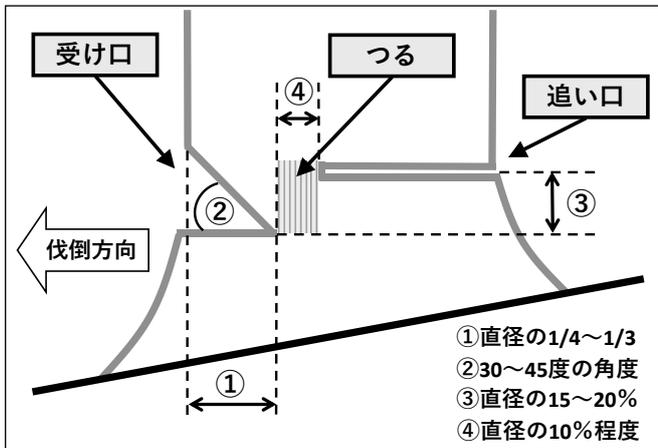


を設けることで蝶番の役目をして、決めた方向に徐々に倒すことができる。

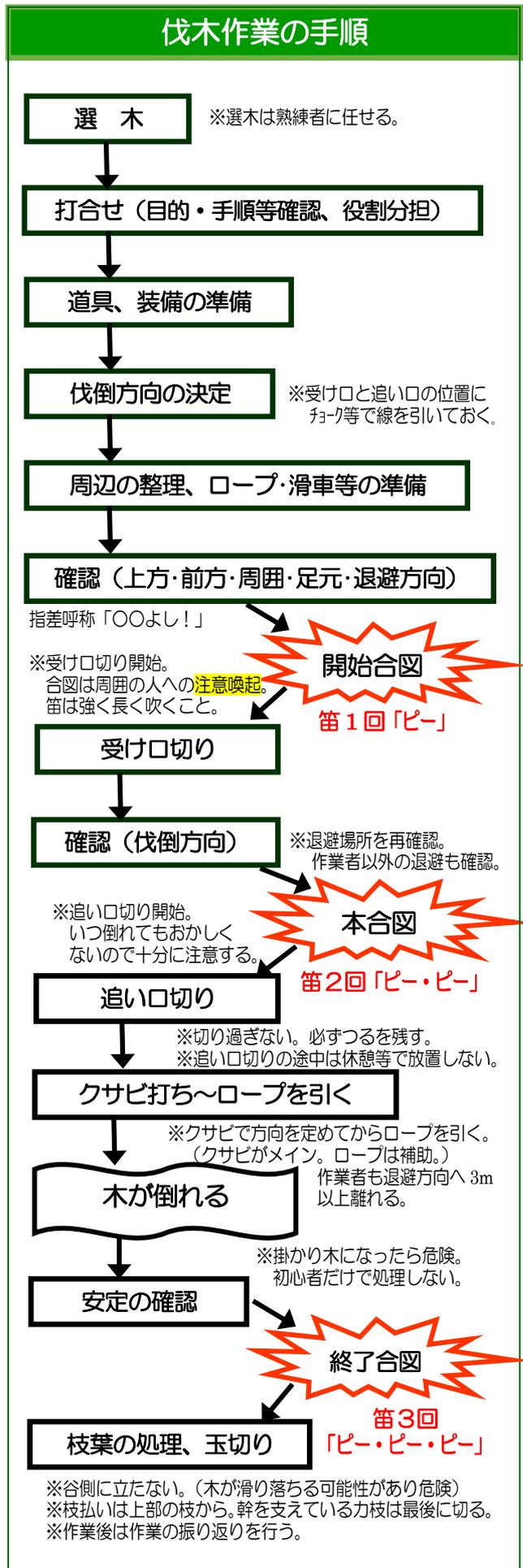
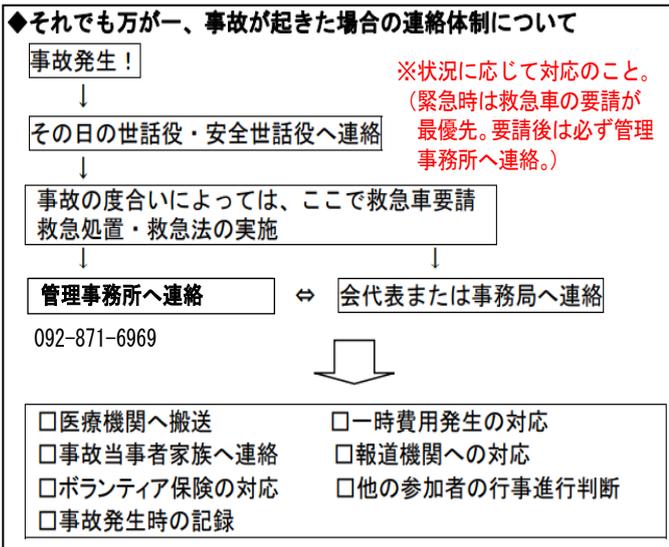
- ⑤クサビの使用とロープによる補助（倒れる方向のコントロール）
- ⑥笛による合図（作業中、周囲の人への注意喚起）
  - ・受け口切り開始時(笛1回)、追い口切り開始時(笛2回)、伐倒終了時(笛3回)の3回必ず実施。

**作業中に気を付けること**

「周囲の人」…原則、作業中以外は樹高の2倍(少なくとも1.5倍)を半径とする円形の中に立ち入らないようにする。来園者にも十分注意する。  
 →事前の作業範囲の周知や声掛けを行い、作業中以外も笛による合図を理解し警戒する。また、来園者にも常に注意を払うとともに、のぼりなどで作業中であることがわかるようにする。  
 「掛かり木」…伐木対象木が、倒れる途中で周囲の木に引っ掛かった状態になること。  
 →処置を誤ったり放置すると落下する恐れがあり大変危険なため、掛かり木にならないよう作業する。それでも発生してしまったら必ず熟練者の指示に従い、その日のうちに処置を完了する。



図(受け口、追い口、つる)



## 油山のお仕事日記

### 「沢のおしごと」

油山市民の森・自然観察指導員 小川真樹

沢の季節がやってきましたね。近年の猛暑、節電の機運の中で、天然のクーラー・油山の沢は、社会のいろいろにベストマッチングです。管理事務所あたりまで来れば、町なかよりも2度くらい気温が低いのですが、夏の猛暑の中にあっては焼け石に水。駐車場とか普通に暑いですが、森の中の沢までおると、サラサラと水の音、緑がキラキラ、冷たい風がスー、見たまえここがラピュ…油山の中核なのだ、と自慢したくなります。

広報のお仕事としては、この素敵な場所を皆さまにお知らせするため、夏だ！沢だ！と賑やかしますが、自然を守るための絶妙なお仕事も行っていきます。

まずは沢の底にゴロゴロ転がる石や岩。水生昆虫やサワガニなどには格好の隠れ場所であり住み家になっています。特に、沢の砂に埋まっておらず、不安定にゴロゴロ動くような「浮き石」の裏には、カゲロウやカワゲラの幼虫の大切な生息場所です。こういう石や岩は沢遊びをするお客さんにとっては、不安定で時にズッコケそうです。ですので、散策路からアクセスの良いお子さま向けの沢遊びエリアで一部石をどけていますが、その他のエリアは石をゴロゴロと転がしたままにしています。沢の生きものたちとの共有空間として整備しているの、服装や足回りには注意してくださいね。薄手で良いので肌の露出を控え、足元はマリンシューズや運動靴が怪我防止になって良いです。水着とビーサンは危ないですよ。

また自然を守る工夫として、実は沢遊びのお客さんを意図的に一定のエリアへ誘導しています。ここからこっちは沢で思い切り遊べるエリア、ここからこっちは生きものたちが静かに暮らせるエリア、というのを分けているのです。生きもの保護区域を作るよりも、楽しく遊べる区域を作った方が割と丸く収まります。知られざるお仕事的一端です。ワレワレものんびりしているようで、ちゃんと働いているのです。そう、この原稿が締切りを大幅にオーバーするほどに…。ウソ、編集担当者さまごめんなさい（泣）



カゲロウの幼虫ちゃん

## 私が森にいる理由

会員にお話しを聞く新コラム。初回は、荒川さんに聞きました。

### ○ きっかけ

子どもが通っていた園は、日々、自然に触れあえる場所でした。卒園時、このような機会から遠ざかるのを残念に思っていた折、すでに森会に入会されていた方から、クラスのグループラインでお誘いがあり、子どもと入会しました。

### ○ 森会で楽しいこと やってみたいこと

森の中で作業をすること。草刈りが好きです。虫は苦手でないので、昆虫観察にも参加しました。コロナ対応のために、木工教室や、草木染が中止となり、まだ体験できていないのが残念。2022年度は、開催されるといいな、と思っています。

自分もそうなのですが、アウトドア体験をしたい、子どもにさせたい、と思っている。けれど、スキルやノウハウがなくて、一歩が踏み出せない。そんな方に森会はよい場かもしれません。

### ○ 好きなもの

谷を一望できる、開けた、高低差のある風景。例えば、尾根にアカマツ、谷には、シダとアカマツの幼木がある、自然観察センター裏で森会が活動する、この油山のアカマツ林。そうそう、私は「プラタモリ」を長いこと見ているのですが、知らないことを知るの楽しいです。



## 4月のリース

道具の扱いが上手な、荒川さんのお子さんが、活動で出た材でリースを作りました。「いろいろ大きさが、ちょっとずつかわっていくように、はっぱをのせている、とちゅうだよ。」左からリョウブ芽だち、松ぼっくり、イヌツゲ、マツの青葉と落葉です。



聞き手 柴戸

# うん・え一会報告

2022年3月6日(日) 9:30~14:30 出席者 16名

## 1. 役割決定、資料確認

## 2. 12~3月活動報告

詳細は会報第141号参照  
幼木調査→2022年度以降休止、データ整理

## 3. 12~3月 特別活動報告

1/9(日) 楯木作り→2022年度は奮って参加を

## 4. 12~3月 対外支援活動報告

1/14(日) 柏陵高校環境科学コース・油山自然研修(7年目)生徒29名、先生4名参加

内容→アカマツ林についての学び、幼木調査、地掻き、伐倒体験 課題→カブ森を対象にしたいか時間が足りない、伐倒木が少なくなってきた

## 5. 2021年度経過報告(2022.3/5現在)

5-1 会員数 33所帯、52名

5-2 年間活動実績

実施回数 14回、参加者(総数 188名、平均 13.4名)増加傾向にある

特別活動4回、参加者(総数 20名、平均 5名)

参加人数が少ない時の安全の担保については世話役、作業担当、更に個人個人が担っている。

対外支援活動1回、参加者(会員3名、学校側33名)

5-3 2021年度世話役活動の振り返り纏め

→昆虫調査でトラップ荒しが多いので要対策、活動日の記録として作業前、作業後の写真を撮る、記録用として、定点写真を撮る(アカマツ林、カブ森 計6か所 年2回)

5-4 会計報告→川原

## 6. 2022年度審議

6-1 役員関連

下記の通り新役員が決まりました。

副代表→松雪、事務局 林→松雪、会計 早川→柴戸、

会計監査 小川→平野(光)

6-2 会員関連

① 2022年度 加入ボランティア保険の変更について機械を使用するため、スポーツ安全保険に加入決定  
年会費及び規約の改定に関しては添付資料を参照。

② 会員登録案内・会費の振り込みについて

6-3 活動関連

① 日数、活動日、項目、内容等「2022年度 活動予定」を参照してください。

② 世話役 下記の通り新旧世話役、サブ世話役決定

納会 杉尾→鎌田、馬場(サブ)、椎茸コマ打ち-川上、

広報 西岡→平野(サブ)、カブ森-川上(サブ)、

アカマツ林-九反(サブ)→計画案提出 3/16迄

6-4 予算関連 助成金等→前年同様申請する

## 7. センター連絡事項

**8. 発送作業** 会報141号、世話役活動の振り返り纏め、年会費改定について、会員登録案内、振り込み用紙、会規約、2022年度活動予定

# 活動予定 (2022年7月~)

★〈作業〉〈調査〉〈観察〉は小雨決行

〈うん・え一会〉〈勉強会〉は雨天決行

活動時間：9:30集合 ~ 15:30解散

★荒天の場合はセンターまでお問い合わせください。

★活動内容は、当日の参加人数、天候等によって変更になる場合があります。

★〈作業〉の標記のある日の服装は「森会スタイル」(長袖、長ズボンで安全に作業ができる動きやすい服装)で参加ください。必要な持ち物は

いぼ付軍手・帽子・タオル・弁当・飲物・おやつ・筆記用具の他、必要に応じて着替え・雨具をご持参ください。



## 7月3日(日) カブトムシの森作業

(予備日7月10日(日))

散策路を中心に全域の草刈りを行う

## 7月24日(日) カブトムシの森昆虫調査

水棲昆虫観察、ホイホイ&ピットフォールトラップ回収とルート観察

## 8月7日(日)

### カブトムシの森 幼木・希少植物の育成WS

五カ年計画及び希少植物の保護育成計画を念頭に現地を回り現状を把握し、希少植物、幼木の管理方針を決める。育成する幼木を選定する。

## 8月21日(日) うん・え一会と備品管理

7~8月活動報告、9~12月活動予定

備品の点検、整備(ハサミ・カマ類研磨、ヘルメット洗浄他)及び数量確認、備品管理台帳更新

\*\*\*\*\*

油山自然観察の森 森を育てる会

会報『森ものがたり』 季刊

編集担当：川上、平野、鎌田、静間、松雪

\*\*\*\*\*